

## 令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (5) 地域への文化発信の拠点となる取り組み  
(6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 情報社会学部

申請組織長 役職名 情報社会学部長 氏名 羽成 隆司

統括責任者 役職名 教授 氏名 亀井 美穂子

課題名 愛知県と近隣地域で展開するこどもとアートとものづくりワークショップ出展・参加者コミュニティの醸成と多様な学びの開発と展開

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	亀井 美穂子	情報社会学部・教授	ワークショップ実施・とりまとめ、電子紙工作・デジタルファブ리케이션ワークショップの開発・実施
	分担者	宮下 十有	文化情報学部・准教授	映像等ワークショップの開発・実施
	分担者	向 直人	情報社会学部・教授	VR・AR のワークショップの開発・実施
	分担者	鳥居 隆司	情報社会学部・教授	電子工作ワークショップの開発・実施

## 1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本事業では、多様な出展者・参加者によって形成される地域コミュニティの醸成と多様な学びの開発と展開を目指すものであり、本学の情報社会学部・文化情報学部の学生・教員を中心に本学の星ヶ丘キャンパスにて運営してきた「あいちワークショップギャザリング」を、2024 年度も運営した。本学部の教育の特色の一つである情報技術を活かしたワークショップ提供を行うだけでなく、地域への文化発信の拠点的な役割と、本学内のみならず複数の大学地域と連携した教育活動の活性化を目的とし、2014 年以降継続的に実施しており、本年度も 3 回実施した。

## 2. 事業方法（特色・独創性）等（300字程度で記述）

本事業では、主として年に3回イベントを星ヶ丘キャンパスで継続的に開催することで、参加者や出展者の学びの場づくりや学びのサイクルを生み出し、出展者・参加者コミュニティの醸成と多様な学びの開発と展開をねらう。

- ・本学部の学びに直結する「情報技術を用いたワークショップ」や「体験のデザイン」をテーマに学生がアイデアを出し、企画・出展するなど、イベントの場の運営に学生、教員が協働できるよう、デザイン・開発にも挑戦できる環境を整えることで、高度情報化社会を生きる人材育成をねらう。
- ・地域の社会教育施設、企業、他大学と連携し、アートとものづくりを軸にしたワークショップを実施運営することで、出展者・参加者双方の主体的な学びと地域文化の醸成の一助となる。
- ・学生、教員、地域の人々と共に、ワークショップの企画・開発・実施・改善を協働で行い、学生の企画開発力や実行力、ファシリテーション能力を培う。

## 3. 事業の成果（600字～800字程度で記述）

夏のイベントは熱中症対策のためにこれまでの8月開催から9月開催とし、2024年9月に、あいちワークショップギャザリング（2日構成1日目・出展者交流会 2日目・一般公開）を実施した。また、初めて出展する学生や出展者のために小規模のイベントとして、2024年6月と2025年2月にあいちワークショップギャザリング mini（午前・出展者交流会 午後・一般公開）を実施した。

例年と同様、本学および愛知県児童総合センターの共催を得て、地域で活躍する専門家、本学学生、教員、卒業生が参加した。近隣の愛知教育大学、愛知淑徳大学、中京大学、名古屋女子大学より継続的な出展がなされた。東京の大正大学の学生も引き続き出展があった。本学科からは、分担者のゼミに所属する学生により、電子工作や情報処理に関するワークショップ、映像作品の展示、VR技術を用いたインタラクティブコンテンツの展示が行われ、卒業研究等にまとめられた。

実施にあたって Peatix によるオンラインの事前予約制を利用し、参加者数を調整した。夏のイベントでは200名程度、6月と2月の mini は100名程度とし、参加者が会場内の複数のワークショップやあそび、ものづくりを十分楽しめる環境を整えた。さらに、交流会を重視・充実した運営を行うことで、出展者のコミュニティの醸成が図られた。これらの成果は2025年2月に報告書にまとめ、関係者に送付した。

トヨタ産業記念館でのワークショップの見学や、愛知県児童総合センター「汗かくメディア受賞作品公開展示」の見学を行なった。昨年に続き、汗かくメディア受賞作品を制作した札幌市立大学のデザイン学部教員と交流し、子どもとあそび、ワークショップと地域連携など、広く情報交換を行った。

また、あいちワークショップギャザリングをモデルとし、豊田市で2025年2月に「第1回 とよたワークショップギャザリング」が開催され、準備から実施までのサポートを行うとともに、現地での交流と情報収集を行った。

## 4. キーワード（本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載）

①ワークショップ	②地域連携	③コミュニティ醸成	④ものづくり
⑤教材開発	⑥子ども	⑦あそび	⑧多様な学び

**5. 事業の達成状況及び今後の課題**（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

11年間、椋山女学園大学で場所を変えず11年間継続して実施してきたことで、本学科だけでなく他大学からも学生が数回、または数年にわたって出展し、出展内容や改善をする流れができています。指導する教員も年間を通して指導予定を組むことができ、本事業が学生のPDCAサイクルを実践する場として地域に根ざしてきていると言える。

また予約システムからの予約状況を見ても、短期間で予約が予定数に達することから、参加者も安定して得られ、椋山女学園大学附属のこども園や幼稚園、小学校との連携もでき、リピーターからの参加も得られている。会場では、出展者と子ども、出展者と保護者といった交流が盛んに行われ、本事業は、地域の中で定着してきていると言える。

さらに、あいちワークショップギャザリングは、豊田市で2025年2月に第1回目が開催され、あいちワークショップギャザリングのモデルをベースとして、他地域での実施につながり情報交換ができたことは、今年度の大きな収穫であった。

今後も、本学科の学びと連動させ、社会と地域と連携しながら本事業を継続、展開し、また、今年度は実現できなかった中学校や高校の出展を促していくこと、また、本年度は実現できなかったアートエデュケーションチーム○△□と本学教員・学生との協働を、次年度も引き続き計画し、出展の質の向上と学生の育成を図ることが、今後の課題である。